

報道関係各位

# 国立新美術館 開館10周年 記念ウィークについてのご案内

国立新美術館は2017年1月21日(土)に開館10周年を迎えます。  
これを記念して、1月20日(金)～30日(月)の期間を  
「開館10周年記念ウィーク」とし、  
館内でスペシャルイベントを実施いたします。  
国立新美術館がもっとみなさまに親しんでいただけるように、  
さまざまなアート表現を紹介し、  
だれもが楽しめる活動を展開してまいります。



館長からのメッセージ

## 開館10周年記念ウィークについて

国立新美術館長 青木 保

国立新美術館は、2017年1月21日開館10周年を迎えます。日本で一番新しい国立美術館として発足したこの美術館は、コレクションのない美術館ですが、公募展、共催展、自主企画展の三種の展覧会を常時開催しており、年間展覧会入場者が200万人を超えるという日本で最も入場者数の多い美術館です。10周年を記念して1月20日から30日までを「記念ウィーク」として様々な記念行事を行いたいと思います。特別展に能・狂言や音楽コンサート、講演やシンポジウム、ワークショップなどできるだけ多彩なプログラムを計画しています。それにこの美術館はあくまでも未来志向の美術館です。これから次の10年をどのように運営してゆくのか。これを機会に美術と美術館の将来を見通す視点とそれに応える企画を持ちたい。そして、文化と芸術の開かれた可能性と未来を追求する美術館であることを願っています。



**2017年1月21日(土)は開館10周年を記念し、展覧会観覧料が無料**

開館記念日の2017年1月21日(土)は開催中の全ての展覧会の観覧料が無料となります。

(「DOMANI・明日展」、「第65回記念 独立書展」)

ホームページ <http://www.nact.jp>

Facebook <http://www.facebook.com/nact.jp>

Twitter @NACT\_PR 10周年に関する情報を中心につぶやきます。

本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先 国立新美術館 広報・国際室 担当:山本・伊藤  
TEL:03-6812-9925 (平日10:00-17:00) FAX:03-3405-2532 E-MAIL:pr@nact.jp

# プログラム(案)

10周年記念ウィークの期間には、大人から子供まで幅広くお楽しみいただける多彩なプログラムを企画しています。今後、詳細は決定次第プレスリリースや国立新美術館HP等で順次お知らせいたします。

## 1 特別展示： いしだたかし 石田尚志 映像インスタレーション

ドローイング・アニメーションという手法を用い、映像作家として着実に地歩を固めてきた石田尚志。近年は、美術館の展示室でのインスタレーションはもとより、屋外での大掛かりなプロジェクション・マッピングでも注目を集めています。今回の展示では、地下鉄から美術館への通路に作品を投影する予定です。めくるめくような映像世界により、通常は展示に馴染まない即物的な空間がどのように変容するか、乞うご期待ください。

会場：地下鉄千代田線乃木坂駅6番出口すぐ、国立新美術館への連絡通路



石田尚志 《海坂の絵巻》2007年、《色の波の絵巻》2010年  
「アーティスト・ファイル2010」展(国立新美術館、2010年)の展示風景

## 2 シンポジウム1： 展覧会とマスメディア

1950年代以降の日本では、大手新聞各社が美術展を主催するようになり、やがて放送局も参入し、美術館とマスメディアが共同で展覧会を企画する我が国独自のスタイルが確立されました。しかし今日、観客の志向の変化や展覧会の一層の商業化により、状況は大きく変化しつつあります。本シンポジウムでは、マスメディア共催による美術展の歴史的な経緯や海外の事例をふまえつつ、今後の展覧会のあり方を考察します。

## 4 アーティスト・ワークショップ： スプレッド SPREAD

クリエイティブ・ユニットSPREADを講師に迎え、ワークショップを開催します。今日、「デザイン」が導入される分野は広告や製品パッケージ、ブランディングにとどまらず、地域振興プロジェクトや教育機関でのコミュニケーション戦略など、より広汎かつ多様化し、社会の中に新たな価値や可能性を創出するためのデザインが求められています。人々のイマジネーションを広げ、創造力を引き出すデザインを発信し続けているSPREADとともに、これからの社会とデザインについて考えます。



## 3 シンポジウム2：2000年代以降の 現代美術と美術館の新たな動向(仮称)

現代美術の展覧会を訪れて気づかされるのは、世界の断片を拾い集め、その集積によって新たな世界を構築するような作品や、資料を提示するかのような展示の方法が確実に増えていることです。これらは、「作品」という概念を転覆させ、観者にまったく新しいアプローチを要求してきます。本シンポジウムでは、この「アーカイヴ」的な志向が、美術館という実践の場でどのように機能し、それが美術館の未来にどのような地平を切り開くのかを議論します。

## 5 その他： 企画中のイベント

狂言公演「福の神」「鬼の継子」「呼声」(山本東次郎家一門による)  
コンサート  
シンポジウム  
など

## 同時開催プログラム

### 特別上映会：東南アジアのフィルム上映

(東南アジア現代美術展(仮称)関連イベント)

国立新美術館、森美術館、国際交流基金アジアセンターは、2017年7月からの展覧会共同開催に向け、SEAプロジェクトを立ち上げ調査活動を行っています。展覧会のプレイベント第一弾では「日本は東南アジアの現代美術にいかに関わってきたのか?」と題したシンポジウムを、第二弾ではインドネシアを代表するアーティストのヘリ・ドノ氏によるパフォーマンスとトークを開催しました。第三弾となる今回のイベントでは、展覧会に参加する作家の映像作品、ならびに展覧会のテーマに関連した東南アジア映画の上映会を行います。



東南アジアのフィルム上映

### ミュージアムショップ：「毎日ハレの日」展

国立新美術館内にあるミュージアムショップ「スーベニアフロムトーキョー」は漫画からアートブック、工芸品から若手デザイナーの作品まで、知名度やジャンルにとらわれることなく、東京の視点で新しいデザインやアートをお届けしています。

地下1階にあるSFT GALLERYでは、年間約6組の展示を開催し、アートやデザインに日常的に触れ、楽しむためのきっかけを提供しています。国立新美術館とミュージアムショップ「スーベニアフロムトーキョー」が選んだ若手アーティスト・デザイナーの作品や、購入して持ち帰り身近で楽しむことのできるプロダクトなどを紹介しています。

「毎日ハレの日」展

会期：2016.11.9(水) - 2017.1.30(月) 営業時間：10:00 - 18:00 (金曜日のみ20:00まで)

場所：国立新美術館B1 SFT GALLERY (スーベニアフロムトーキョー内)

年末年始や記念日はもちろん、なんてことない唯の日でも

少しだけ「ハレ」の場に変える器や道具を集めました。



6名の作家による企画展

家族が集まる食卓を日本らしく彩る器とお飾り。

ぜひこの機会にSFT GALLERYでお楽しみください。

出展作家(敬称略)：猪狩 史幸、小林 耶摩人、坂場 圭十、

中園 義光、長浦 ちえ、広川 絵麻

問い合わせ先 株式会社ウェルカム TEL:03-5770-7418 E-MAIL:information@souvenirfromtokyo.jp

### カフェ・レストラン：展覧会 特別メニュー

国立新美術館内カフェ・レストラン4店舗にて、企画展にあわせた「展覧会 特別メニュー」をご提供いたします。この機会にぜひお立ち寄りください。特別メニューは後日詳細が明らかに!お楽しみに!

営業時間:

カフェ B1F・2F 11:00~18:00 金曜は~19:00 (L.O.は30分前まで)

1F 10:00~18:00 金曜は~20:00

レストラン 3F 11:00~21:00 金曜は~22:00 (L.O.は90分前まで)



3F ブラッスリー ボール・ボキューズ ミュゼ



B1F カフェテリア カレ



1F カフェ コキュー



2F サロン・ド・テロンド

本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先 国立新美術館 広報・国際室 担当:山本・伊藤

TEL:03-6812-9925 (平日10:00-17:00) FAX:03-3405-2532 E-MAIL:pr@nact.jp

## 参考資料 国立新美術館の10年間のあゆみ

2007年1月21日に開館して以来、国立新美術館は「展覧会の開催」「美術に関する情報や資料の収集・公開・提供」「教育普及活動」の3つを柱に活動を続けてきました。

### 1 展覧会の開催

国内最大級の展示スペース(14,000㎡)を生かした話題の展覧会を多く開催し、これまでに約2273万人の展覧会入場者(2016年3月31日現在)をお迎えしました。

#### 1-1 企画展

国立新美術館は、2000㎡の展示室2室を使い、年間6本程度のペースで展覧会を企画、開催しています。企画展には2つの方針があります。1つは、現代に活躍する美術家たちの紹介です。2008年から継続して行ってきた現代作家のグループ展「アーティスト・ファイル」シリーズに加えて、日本の現代絵画を代表するダイナミックな画風で知られる中村一美、ドイツの国際的な写真家アンドレアス・グルスキー、世界のファッションを牽引するデザイナー三宅一生といった作家たちの個展を開催してきました。そして10周年の記念すべき年には、草間彌生の全貌をご紹介する大規模な個展を予定しています。2つ目の方針は、歴史的な名品をご堪能いただく展覧会の開催です。ルーヴル美術館やオルセー美術館の重厚なコレクションや、ファン・ゴッホ、セザンヌ、ルノワール、マグリットといった巨匠たちを紹介する展覧会は、数多くのお客様でにぎわいました。

そして私たちは近年、従来にはない新しい方向も打ち出しています。国立民族学博物館と共同で開催した「イメージの力」展や、日本が世界に誇る視覚文化であるマンガ、アニメ、ゲームを歴史的に包括した展覧会が大きな話題になりました。これからも国立新美術館は、時代の動きを敏感に反映し、世界に向けて発信していく大胆な企画に挑戦していきます。

- ※主な企画展
- 「国立新美術館開館記念展 20世紀美術探検—アーティストたちの三つの冒険物語—」(2007)
  - 「国立新美術館開館記念 大回顧展モネ 印象派の巨匠、その遺産」(2007)
  - 「スキン+ボーンズ—1980年代以降の建築とファッション」(2007)
  - 「エミリー・ウングワレ展—アポリジニが生んだ天才画家—」(2008)
  - 「シュルレアリスム展—バリ、ボンビドゥセンター所蔵作品による—」(2011)
  - 「セザンヌ—バリとプロヴァンス」(2012) 「「具体」—ニッポンの前衛 18年の軌跡」(2012)
  - 「カリフォルニア・デザイン 1930-1965—モダン・リビングの起源—」(2013)
  - 「イメージの力—国立民族学博物館コレクションにさぐる」(2014) 「中村一美展」(2014)
  - 「ニッポンのマンガ\*アニメ\*ゲーム」(2015)
  - 「アーティスト・ファイル2015 隣の部屋—日本と韓国の作家たち」(2015)
  - 「MIYAKE ISSEY展: 三宅一生の仕事」(2016)
  - 「オルセー美術館・オランジュリー美術館所蔵ルノワール展」(2016) 「ダリ展」(2016)

#### 1-2 公募展

国立新美術館では、全国的な活動を行っている美術団体等に、発表の場を提供し、様々なジャンルの展覧会を開催しております。1室1,000㎡の展示室を10室、315㎡の野外展示場を4区画使用し、現在は、年間69の公募団体が展覧会を開催しております。絵画、版画、工芸、書、彫刻など日本の美術を幅広くご覧いただけます。

※年度別入場者数	平成19年度/1,317,508人	平成22年度/1,266,989人	平成25年度/1,205,249人
	平成20年度/1,309,747人	平成23年度/1,253,764人	平成26年度/1,193,917人
	平成21年度/1,246,840人	平成24年度/1,259,966人	平成27年度/1,194,428人



左: 「イメージの力: 国立民族学博物館コレクションにさぐる展」

展示風景 2014年 撮影: 上野則宏

右: 「MIYAKE ISSEY展: 三宅一生の仕事」

展示風景 2016年 撮影: 吉村昌也



「オルセー美術館・オランジュリー美術館所蔵ルノワール展」

展示風景 2016年 撮影: 上野則宏



公募展示室

## 2 美術に関する情報や資料の 収集・公開・提供

当館は、作品を収集しない美術館ですが、美術に関する資料や情報に関しては収集・保存し、閲覧に供しています。美術資料室は、そのための業務を担う部署です。

開館から10年が経ち、初心者から専門家までのすべての方々を対象としたアートライブラリー(美術館3階)は、美術専門図書館としては国内最大級の年間約3万人の方々に利用されています。特に収集に力を入れている展覧会カタログは、全国の美術館・博物館の皆様にご協力によって約10万冊のコレクションとなりました。また、2013年に開室したアートライブラリー別館閲覧室(別館1階)は、戦前期の図書・展覧会カタログ、終刊雑誌等のより専門的な資料があり、研究者や学生の方々を中心に利用されています。さらに近年では、写真資料、文書類、エフェメラ類等の特殊で稀少な資料の整理にも着手するようになりました。また、「アーティスト・ファイル展」資料、山岸信郎氏旧蔵資料、近藤竜男氏旧蔵資料等の収集アーカイブズの整理・公開も始めています。

「美術資料」とひとくちに言っても、さまざまなタイプの資料があります。当館では、それぞれの資料の性格に合わせた収集、保存、公開の方法を今後も模索し、日本における美術の情報拠点として、さらに多くの方々に活用していただくことを目指してまいります。

「国立新美術館」はその機能の一つとして「人と情報をつなぎ、文化遺産としての資料を収集・公開する美術館」を開館以来掲げてきました。情報企画室では、日本国内の美術館、画廊、美術団体が開催するさまざまな展覧会の情報を収集し、検索可能とすることで人と美術をつなぐための接続点としての役割を担ってきました。それを可能とし、公開している展覧会情報検索サービス「アート commons」では、現在、1000か所を超える美術館などから、チラシや案内ハガキをお送りいただき、最新の展覧会情報を検索できるようになっています。展覧会情報を蓄積することにより日本のアートシーンを記録するデータベースとして活用できるよう、今後も継続的に事業を展開していきます。始めてから10年、現在では3万件を超える展覧会情報が登録されています。

## 3 教育普及 活動

教育普及室では、「参加し交流し創造する美術館」をテーマに、様々なプログラムを実施してまいりました。来館者の作品鑑賞の充実を目的に、展覧会に即した講演会やアーティスト・トーク、シンポジウムのほか、展覧会の鑑賞ガイドを発行し、展覧会を分かりやすく読み解くツールとして、ご利用いただいています。「ニッポンのマンガ\*アニメ\*ゲーム1989-2015」展や「MIYAKE ISSEY展: 三宅一生の仕事」展では、日本語版だけでなく、英語版ガイドも作成いたしました。

一方、様々な年齢層に対して、幅広い視点からアートについて考え体験するアーティスト・ワークショップも、ファッションやデザインなど様々な分野から講師を招いて開催し、開館以来通算して65回(2016年10月末現在)を数えることとなります。また、近年未就学児を対象とした「はじめてのアート」シリーズを開始し、毎回好評をいただいております。さらに世界巡回した「ニッポンのマンガ\*アニメ\*ゲーム」展のミャンマー会場、バンコク会場では、普及室スタッフ等による「ゾートローブを作ろう」というワークショップも実施しました。同じプログラムでも国が変わると描く絵の傾向などの違いが見え、スタッフ一同勉強になる経験でした。普段は限られた人の参加となってしまうがちなワークショップですが、10周年を機に記録集の編纂も進めており、活動の公開を促進してまいります。

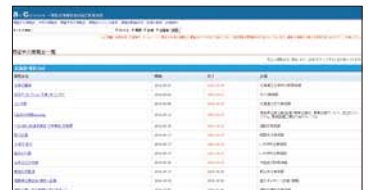
こうした来館者を対象としたプログラムのほか、美術館活動の理解の促進や将来美術館で働くことを想定した若い人材の育成を図る試みも継続しています。美術館が開館した2006年度以降、87名のインターンを受け入れたほか、ボランティアとして活動する大学生・大学院生のサポート・スタッフの延べ登録数は760名以上に達しました。今後ともこうした活動を継承しつつ、より来館者のニーズをとらえた活動を促進してまいります。



アートライブラリー(美術館3階)



アートライブラリー別館閲覧室(別館1階)



アート commons



国際シンポジウム「アーティストとの関わりは私たちに何をもたらすのか―“経験する”現場からの検証」(2015年3月15日)



ワークショップ「はじめてのアート ふわふわおえかき ブッシュしてポヨン!」(2015年11月15日)



「ニッポンのマンガ\*アニメ\*ゲーム ミャンマー展」関連ワークショップ「ゾートローブを作ろう」(2016年2月14日、15日)

参考資料

企画展一覧

※入場者数は国立新美術館によるもので、共催各社の発表する数字と異なる場合があります。

	展覧会	会期	入場者数
<b>2007</b>	国立新美術館開館記念展 20世紀美術探検—アーティストたちの三つの冒険物語—	1/21～3/19	89,475
	黒川紀章展—機械の時代から生命の時代へ	1/21～3/19	166,793
	文化庁メディア芸術祭10周年企画展 日本の表現力—アートとエンターテインメントの融合と進化	1/21～2/4	52,093
	<small>エトランジェ</small> 異邦人たちのパリ1900—2005 ポンビドー・センター所蔵作品展	2/7～5/7	315,266
	国立新美術館開館記念 大回顧展モネ 印象派の巨匠、その遺産	4/7～7/2	704,420
	スキン+ボーンズ—1980年代以降の建築とファッション	6/6～8/13	60,056
	日展100年 一目でわかる!日本の美術この100年	7/25～9/3	135,486
	<small>バーナール・フォト・アーカイブス</small> 安齋重男の“私・写・録”1970-2006	9/5～10/22	15,895
	国立新美術館開館記念 アムステルダム国立美術館所蔵 フェルメール「牛乳を注ぐ女」とオランダ風俗画展	9/26～12/17	493,886
	文化庁芸術家在外研修制度40周年記念「旅」展—異文化との出会い、そして対話—	12/15～1/28	18,772
<b>2008</b>	没後50年 横山大観—新たなる伝説へ	1/23～3/3	223,671
	平成19年度[第11回]文化庁メディア芸術祭	2/6～2/17	40,553
	アーティスト・ファイル 2008—現代の作家たち	3/5～5/6	29,823
	モディリアアーニ展	3/26～6/9	260,117
	エミリー・ウングワレ展—アポリジニが生んだ天才画家—	5/28～7/28	100,221
	ウィーン美術史美術館所蔵 静物画の秘密	7/2～9/15	132,403
	アヴァンギャルド・チャイナ—(中国当代美術)二十年—	8/20～10/20	18,570
	巨匠ピカソ 愛と創造の軌跡	10/4～12/14	312,390
	未来を担う美術家たち DOMANI・明日展2008 文化庁芸術家在外研修の成果	12/13～1/26	14,985
	<b>2009</b>	加山又造展	1/21～3/2
平成20年度[第12回]文化庁メディア芸術祭		2/4～2/15	51,505
アーティスト・ファイル2009—現代の作家たち		3/4～5/6	37,426
ルーヴル美術館展 美の宮殿の子どもたち		3/25～6/1	221,892
野村仁 変化する相—時・場・身体		5/27～7/27	14,037
生誕150年 ルネ・ラリック華やぎのジュエリーから煌きのガラスへ		6/24～9/7	120,990
光 松本陽子／野口里佳		8/19～10/19	20,188
THE ハプスブルク		9/25～12/14	390,219
未来を担う美術家たち DOMANI・明日展2009 文化庁芸術家在外研修の成果		12/12～1/24	14,037
<b>2010</b>		ルノワール—伝統と革新	1/20～4/5
	平成21年度[第13回]文化庁メディア芸術祭	2/3～2/14	58,242
	アーティスト・ファイル2010—現代の作家たち	3/3～5/5	33,866
	ルーシー・リー展	4/28～6/21	113,584
	オルセー美術館展2010「ポスト印象派」	5/26～8/16	777,551
	マン・レイ展 知られざる創作の秘密	7/14～9/13	75,124
	陰影礼讃—国立美術館コレクションによる	9/8～10/18	29,143
	没後120年 ゴッホ展—こうして私はゴッホになった—	10/1～12/20	595,346
	未来を担う美術家たちDOMANI・明日展2010 文化庁芸術家在外研修の成果	12/11～1/23	15,881

	展覧会	会期	入場者数
<b>2011</b>	平成22年度[第14回]文化庁メディア芸術祭	2/2～2/13	63,490
	シュルレアリスム展—バリ、ポンビドゥセンター所蔵作品による—	2/9～5/15	189,971
	アーティスト・ファイル2011—現代の作家たち	3/16～6/6	21,114
	ワシントン・ナショナル・ギャラリー展 印象派・ポスト印象派 奇跡のコレクション	6/8～9/5	380,304
	モダン・アート, アメリカン—珠玉のフィリップス・コレクション	9/28～12/12	88,853
<b>2012</b>	未来を担う美術家たち DOMANI・明日展 文化庁芸術家在外研修の成果	1/4～2/12	16,448
	野田裕示 絵画のかたち/絵画の姿	1/18～4/2	21,151
	平成23年度[第15回]文化庁メディア芸術祭	2/22～3/4	45,175
	セザンヌ—バリとプロヴァンス	3/28～6/11	302,239
	大エルミタージュ美術館展 世紀の顔—西欧絵画の400年	4/25～7/16	392,949
	「具体」—ニッポンの前衛 18年の軌跡	7/4～9/10	26,700
	与えられた形象—辰野登恵子/柴田敏雄	8/8～10/22	15,725
	リヒテンシュタイン 華麗なる侯爵家の秘宝	10/3～12/23	253,569
<b>2013</b>	未来を担う美術家たち DOMANI・明日展2013 文化庁芸術家在外研修の成果	1/12～2/3	14,307
	アーティスト・ファイル2013—現代の作家たち	1/23～4/1	30,914
	平成24年度[第16回]文化庁メディア芸術祭	2/13～2/24	51,819
	カリフォルニア・デザイン 1930-1965—モダン・リビングの起源—	3/20～6/3	65,160
	フランス国立クリュニー中世美術館所蔵『貴婦人と一角獣』展	4/24～7/15	213,512
	アンドレアス・グルスキー展	7/3～9/16	119,467
	アメリカン・ポップ・アート展	8/7～10/21	187,627
	印象派を超えて—一点描の画家たち ゴッホ、スーラからモンドリアンまで		
	クレラー＝ミュラー美術館所蔵作品を中心に	10/4～12/23	180,769
	未来を担う美術家たち 16th DOMANI・明日展 文化庁芸術家在外研修の成果	12/14～1/26	15,050
<b>2014</b>	平成25年度[第17回]文化庁メディア芸術祭	2/5～2/16	38,938
	イメージの力—国立民族学博物館コレクションにさぐる	2/19～6/9	59,767
	中村—美展	3/19～5/19	18,939
	魅惑のコスチューム:バレエ・リュス展	6/18～9/1	74,067
	オルセー美術館展 印象派の誕生—描くことの自由—	7/9～10/20	696,442
	チューリヒ美術館展—印象派からシュルレアリスムまで	9/25～12/15	300,086
	未来を担う美術家たち 17th DOMANI・明日展 文化庁芸術家在外研修の成果	12/13～1/25	13,906
<b>2015</b>	平成26年度[第18回]文化庁メディア芸術祭	2/4～2/15	43,660
	ルーヴル美術館展 日常を描く—風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄	2/21～6/1	662,491
	マグリット展	3/25～6/29	338,478
	ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム	6/24～8/31	92,658
	アーティスト・ファイル2015 隣の部屋—日本と韓国の作家たち	7/29～10/12	21,365
	ニキ・ド・サンファル展	9/18～12/14	88,243
	未来を担う美術家たち 18th DOMANI・明日展 文化庁芸術家在外研修の成果	12/12～1/24	12,711
<b>2016</b>	はじまり、美の饗宴展 すばらしき大原美術館コレクション	1/20～4/4	64,455
	平成27年度[第19回]文化庁メディア芸術祭 受賞作品展	2/3～2/14	34,876
	MIYAKE ISSEY展: 三宅一生の仕事	3/16～6/13	140,607
	オルセー美術館・オランジュリー美術館所蔵 ルノワール展	4/27～8/22	667,897
	アカデミア美術館所蔵 ヴェネツィア・ルネサンスの巨匠たち	7/13～10/10	116,950
	ダリ展	9/14～12/12	—